

私は32歳まで本州で過ごし、10年前、転職を機に北海道へやってきました。この話をすると、必ず『何しにきたの?』と聞かれますが、大した理由も思い当たらず、『何かの縁でしょうか』とお答えします。(学生時代は自転車部に属し、日本全国を巡りました。北海道も2回旅しましたが…)

最近、『地道さ』が好きです。目標に向かって努力を継続する。すばらしい。運動神経の決してよくない私の娘。日々の努力を重ね、全国女子駅伝の北海道チーム中学生代表選手に選ばれ、今年の正月に都大路で襷を繋ぎました。その後、すぐさま高校受験。嘘かしプレッシャーに苛まれているかと思いきや、『受験って楽だね。だって、北海道で一番にならなくても合格できるもん!』ですって。地道さが人を大きくしたな～。無事、志望校に合格しました。(私は技術士を何度も落ちたのですが…)

最後に、私が技術士になってよかったと思うこと。それは、『物事にじっくり向き合い、真面目に考えることが正しいことだ』に確信をもてたことです。最近、世間には情報が溢れています。近い将来AI時代が到来し、多くの仕事をロボットが代行する。『それじゃ、人間は何するの?どんな時代になるのだろうか?』。そんな他愛の無いことを考えている時、大学入試センター試験が大学入学共通テストに代わることを知りました。次世代を担う人財に『知識・技能』だけではなく『思考力・判断力・表現力』を求めよう。あれっ、これって『単に技術に関する知識を持つだけでなく、高等の専門的な応用能力をもって問題を解決する者』である技術士の本来の姿ではないですか…。どうやら、私たちの能力にさらなる磨きをかけ、新しい時代に備える必要があるようです。

最後に、私が技術士になってよかったと思うこと。それは、『物事にじっくり向き合い、真面目に考えることが正しいことだ』に確信をもてたことです。最近、世間には情報が溢れています。近い将来AI時代が到来し、多くの仕事をロボットが代行する。『それじゃ、人間は何するの?どんな時代になるのだろうか?』。そんな他愛の無いことを考えている時、大学入試センター試験が大学入学共通テストに代わることを知りました。次世代を担う人財に『知識・技能』だけではなく『思考力・判断力・表現力』を求めよう。あれっ、これって『単に技術に関する知識を持つだけでなく、高等の専門的な応用能力をもって問題を解決する者』である技術士の本来の姿ではないですか…。どうやら、私たちの能力にさらなる磨きをかけ、新しい時代に備える必要があるようです。

## 武田 旨弘(たけだ よしひろ)

- 総合技術監理部門(建設)
- 建設部門(建設環境)
- 環境部門(環境測定)

### 勤務先

株式会社日興ジオテック 環境開発課



→次号は、津川宣之さん(上下水道部門)

私は岩見沢市出身で、道外の大学で土木工学を学び、4年間の道外建設コンサルタントの経験を経て現在の会社に入社し、通算で30年目を迎えたところです。一貫して橋梁に関する仕事を中心に携わせてもらいました。経歴はざっくり三分割することができ、軟弱地盤における各種基礎の設計に始まり、次にPCラーメン橋の下部工設計と耐震設計、その後は地下鉄地上部の橋りょうと高架橋の設計に関わることができました。これら3分野の経験を活かして、建設部門の3科目で技術士を取得しました。またそれぞれの取得時期が6年ほどずれたため、偶然にも試験制度は全て異なるものでした。筆記試験の内容はかなり変化しましたが、口頭試験で問われる技術士法に関する質問は変わっていません。様々な問われ方があると思いますが、昨年「鉄道」で受験した時は「最後に、技術士についてあなたの考えを」という非常に漠然とした問いかけがありました。10秒ほど考えて「技術士と言う資格が世間一般に知られないといけない。市民の近くで社会貢献をしているのに認知されていない。だから建設業界は学生に人気が無い。」という主旨のことを答えました。試験官は二人とも大きく頷いてくれました。技術士個人のアピールも大事ですが、技術士会としてのアピール(仕掛け)も必要だと思います。注目度の高いドローンやICT技術は、建設業界では技術士が中心となって活用、開発をしているといった発信も有効だと思います。また今なら、LINE、インスタグラム、ツイッターなどのSNSを活用も有効だと思います。例えばインフラや技術者をイメージしたLINEスタンプの発信、インスタ映えるインフラの紹介、技術士のツイートによる職場紹介など。いかがでしょうか。

私は岩見沢市出身で、道外の大学で土木工学を学び、4年間の道外建設コンサルタントの経験を経て現在の会社に入社し、通算で30年目を迎えたところです。一貫して橋梁に関する仕事を中心に携わせてもらいました。経歴はざっくり三分割することができ、軟弱地盤における各種基礎の設計に始まり、次にPCラーメン橋の下部工設計と耐震設計、その後は地下鉄地上部の橋りょうと高架橋の設計に関わることができました。これら3分野の経験を活かして、建設部門の3科目で技術士を取得しました。またそれぞれの取得時期が6年ほどずれたため、偶然にも試験制度は全て異なるものでした。筆記試験の内容はかなり変化しましたが、口頭試験で問われる技術士法に関する質問は変わっていません。様々な問われ方があると思いますが、昨年「鉄道」で受験した時は「最後に、技術士についてあなたの考えを」という非常に漠然とした問いかけがありました。10秒ほど考えて「技術士と言う資格が世間一般に知られないといけない。市民の近くで社会貢献をしているのに認知されていない。だから建設業界は学生に人気が無い。」という主旨のことを答えました。試験官は二人とも大きく頷いてくれました。技術士個人のアピールも大事ですが、技術士会としてのアピール(仕掛け)も必要だと思います。注目度の高いドローンやICT技術は、建設業界では技術士が中心となって活用、開発をしているといった発信も有効だと思います。また今なら、LINE、インスタグラム、ツイッターなどのSNSを活用も有効だと思います。例えばインフラや技術者をイメージしたLINEスタンプの発信、インスタ映えるインフラの紹介、技術士のツイートによる職場紹介など。いかがでしょうか。

## 寿楽 和也(じゅらく かずや)

- 建設部門(土質及び基礎、鋼構造及びコンクリート、鉄道)

### 勤務先

株式会社ドーコン 構造部



→次号は、竹原智久さん(総監、建設)